日本口腔インプラント学会
第22回関東甲信越支部総会
学術大会

プログラム・抄録集

会　期　：平成14年11月10日（日）
会　場　：東京女子医科大学弥生記念講堂
主　催　：日本口腔インプラント学会関東甲信越支部
大会長　：扇内秀樹
主　幹　：東京女子医科大学医学部歯科口腔外科学教室

【8】

上顎洞内隔壁の解剖学的研究
-完全隔壁について

高橋常男[1)],○渡辺孝夫[2)],佐藤淳一[3)]

神奈川歯科大学口腔解剖学教室[1)],
鶴見大学歯学部口腔外科学第1講座[2)],
鶴見大学歯学部顎顔面インプラント科[3)]

I　目的

上顎洞隔壁には完全隔壁と不完全隔壁があると言われる．完全隔壁とは，上顎洞を完全に多洞にするもので，高い隔壁を示す．今回、われわれは上顎洞を含む半側上顎骨体ブロックを用いて、完全隔壁について調査したので報告する．

II　材料および方法

神奈川歯科大学解剖学実習に提供された75献体，150個の半側上顎骨体乾燥骨ブロックのうち，上顎洞が実習で使用されたものを除く，残り132個について洞内隔壁を解剖学的に調査した（関芳彦：神奈川歯学36,P215,2001）．今回，これらのブロックを調査対象とし，完全隔壁と思われる隔壁を下稜線(ZAC-line)および25mm水平線を基準に，位置，走行，高さ，分布を調査した．

III　結果

完全隔壁と思われる鋭く，高い隔壁をもつブロックが2個みられた（1.5%/132）．これらは同一献体の左右上顎洞にみられもので，いずれもZAC-line（下稜線）より後方にみられ，洞内壁下部より洞底部，外壁，上壁を経て内壁上部に到達し，それらの位置，高さ，走行はほぼ同様であった．また，隔壁で隔てられた前後の上顎洞はそれぞれに自然孔があり，鼻腔と交通していた．

IV　考察および結語

今回の検索で，完全隔壁とみられる構造物は2ブロックでみられた．これらの隔壁は，鋭くて、高い隔壁を有しており、サイナスリフトに際し，骨開窓の位置，大きさ，洞粘膜挙上の限界の設定などに影響を及ぼすと考えられた．